

説明書 5

凍結胚移植に関する説明

①はじめに

採卵を受けた後は、排卵誘発剤の使用によりホルモンバランスが崩れていることがありますので、1周期身体を休めていただきます。その後、診察を受けていただき、「凍結胚の移植を希望する」ことを伝えて下さい。ご相談の後、移植をお受けになる周期と方法およびスケジュールを決定します。卵巢機能が正常で毎月順調に排卵し月経が来る方は、自然周期を試すことができます。多くの方はホルモン剤による人工周期で胚移植を行います。

②自然周期での胚移植

- ・月経周期が順調の方で、比較的自由に都合がつけられる方は自然周期で移植ができる可能性があります。
- ・月経開始2～3日目頃来院していただき、その後毎回、経腔超音波、採血によるホルモン測定をしていきます。子宮内膜の厚み、卵胞径、ホルモン値などから移植の日を決定いたします。排卵を確認する必要があるため連日の来院が必要となることがあります。
- ・必要によりブセレリンの点鼻、HCGの注射、エストロゲンの補充（内服、貼付剤、ジェル剤の塗布）、プロゲステロンの補充（内服、腔坐薬）等を追加します。
- ・移植に伴う腔、腹腔内出血や感染が起こる可能性があります。腹腔内感染予防のため抗菌薬を内服していただきます。
- ・排卵に合わせるため移植日の変更はできません。移植日に都合がつかない場合、その周期の移植はキャンセルとなります。

③人工周期での胚移植

- ・月経不順、無月経、多のう胞性卵巢の方は人工周期の移植になります。移植の日をご都合に合わせてられます。月経2～3日目に来院していただき、プレマリン内服、エストラナ貼布、ジェル剤の塗布などエストロゲン製剤により人工的に子宮内膜を厚くします。内服10～14日後経腔超音波で子宮内膜厚が8mm以上になった事を確かめた後、エストロゲン製剤に加え、プロゲステロン製剤を投与し、移植の日を決定いたします。
- ・移植に伴う腔、腹腔内出血や感染が起こる可能性があります。腹腔内感染予防のため抗菌薬を内服していただきます。
- ・人工周期で妊娠された場合、妊娠第9週過ぎまでホルモン補充療法を続けます。

④リスク

- ・当院では、胚への負荷が最も少ない超急速ガラス化法という方法を用いて、凍結・融解を行っていますが、凍結胚を融解した際に胚全体が変性してしまう場合があります。また急激な温度変化による歪みが凍結胚上で起こり、胚が破裂してばらばらになってしまう場合があります。（当院の変性によって移植に用いることができなかった率0.9%、破裂により用いることができなかった率0.2%）

- ・ 1 個の胚を移植しても分裂により多胎となる場合があります。他に異所性妊娠、流産となる可能性があります。

⑤治療成績について

凍結融解胚を用いた治療成績は、日本産科婦人科学会の 2018 年度の報告によると 34.7%（移植周期当たり）です。当院の 2021 年のデータでは凍結融解胚移植での妊娠率は 50.7%です。

⑥規定

- a) 「同意書 5 凍結胚移植に関する同意書」の提出が移植日前日までにない場合は、凍結融解胚移植を行うことはできません。
- b) 体外受精・胚移植は生殖補助医療の安全性を確保のため学会報告する義務があります。
* 妊娠後の予後調査票の提出をお願いしています。個人名が出ることはありません。
- c) お預かりした個人情報個人情報保護法および当院規定で取り扱い、治療に関する情報は個人を特定されない形で学会報告、論文発表で使用させていただく可能性があります。
- d) 治療開始前であれば自由意思で同意を取り消すことができます。

(医) 愛慈会 理事長 松本玲央奈
松本 和紀

MLC-1005 202205174004